

# 編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
107-197	高等学校	国語	論理国語	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教科書名		
212 桐原	論国 212-901	探求 論理国語 改訂版		

## 1. 編修の趣旨及び留意点

本書は、高等学校学習指導要領「論理国語」に準拠して編修した教科書である。教育基本法第2条にある目標と「論理国語」の目標の両方の達成を可能にするため、言語を通して伝え合う力を高め、思考力・判断力・表現力を育成しつつ国語力を高められるよう、題材の選定と学習内容の構成・展開に留意した。

## 2. 編修の基本方針

教育基本法第2条に示す教育目標を達成するため、以下の点を編修の基本方針とした。

### ①指導しやすい2部構成

多様な教育現場の学力レベルと指導形態に対応できるよう「I部」「II部」の2部構成とし、ジャンル別単元とした。

### ②教材の配置と学習の指針

各教材は、内容のまとまり・指導の時間数を考慮したうえで適切な分量の優れたものを精選した。また、学習上・指導上の効果を考慮して、より易しいものから難しいものへと配列した。各教材の末尾には、「読解」「表現」「発展」の問題から成る「学習の手引き」を設けるとともに、各教材における最終的な言語活動の到達目標を示す「活動」を設定し、学習の指針となるようにした。

### ③教材の理解と主体的な言語活動

学習者の理解力養成のため、各教材の本文下段には内容理解を促す小問を付したほか、末尾の「学習の手引き」には内容理解を深め、主題に迫るための「読解」問題を必ず設けた。さらに、主体的な学びに誘うための言語活動を各教材に設けた。また、評論学習を通じて得た知見を生かし、評論の内容理解をさらに深めるための問いおよび参考の文章を「〈知〉の深化」として3つの評論教材に設定・配置した。

## 3. 対照表

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所(ページ)
I部「評論」5単元 (11教材)	①幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養えるよう、多彩な内容を持つ24教材を配した(第1号)。	①18~33 42~59 72~99 108~133 164~186 236~265 296~325 334~359 370~384 406~425
II部「評論」5単元 (13教材)	②I部に、生命を考える教材「いのちは誰のものか?」を配した(第4号)。 ③I部に、環境を考える教材「木を伐る人/植える人」を配した(第4号)。 ④I部に、社会を考える教材『「である」ことと『する』こと』を配した(第3号)。 ⑤II部に、社会を考える教材「市民社会化する家族」「多様性の時代における『利他』」「地区の想像力」「真理の探求と民主主義」を配した(第3号)。	②25~33 ③72~93 ④174~186 ⑤296~315 406~425

<p>I 部 「評論解析 A」 (4 教材) 「評論解析 B」 (4 教材) II 部 「評論解析 C」 (4 教材)</p>	<p>①幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養えるよう、「評論解析」3 単元を設け、多彩な内容を持つ 12 教材を配した (第 1 号)。</p>	<p>①34～41 100～107 266～275</p>
<p>I 部「体験と思索」 2 単元 (2 教材) II 部「体験と思索」 2 単元 (2 教材)</p>	<p>①幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養えるよう、多彩な内容を持つ 4 教材を配した (第 1 号)。 ②自他の敬愛と協力を重んじ、主体的に社会の形成に参画することについて考える教材「焚き火の時間」を配した (第 3 号)。 ③平和を考える教材「沙魚」を配した (第 5 号)。</p>	<p>①60～65 156～163 276～281 360～369 ②156～163 ③360～369</p>
<p>I 部「実社会」 (4 教材) II 部「実社会」 (4 教材)</p>	<p>①幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養えるよう、多彩な内容を持つ 8 教材を配した (第 1 号)。 ②環境の保全について考える教材「プレゼンテーションソフトを活用して発表する」を配した (第 4 号)。 ③個人の価値を尊重して、その能力を伸ばすとともに、進学・職業について考える教材「志望理由を書く」を配した (第 2 号)。 ④生命誕生について考える教材「ニュースを読む」を配した (第 4 号)。</p>	<p>①187～202 426～448 ②430～435 ③436～441 ④442～448</p>
<p>テーマ型単元 I 部 「境界をこえて」 (3 教材) II 部 「AI と人間」 (2 教材) 「近代を見つめる」 (3 教材)</p>	<p>①自他の敬愛と協力を重んじ、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養えるよう、I 部にテーマ型単元「境界をこえて」を設け、3 教材を配した (第 3 号)。 ②生命を尊ぶ態度を養うために、II 部にテーマ型単元「AI と人間」を配した (第 4 号)。 ③個人の価値を尊重し、自主及び自律の精神を養うために、II 部にテーマ型単元「近代を見つめる」を設け、3 教材を配した (第 2 号)。</p>	<p>①134～154 ②282～295 ③386～405</p>
<p>「論文を読む」 (4 教材)</p>	<p>①幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養えるよう、学術的な内容を持つ 4 教材を配した (第 1 号)。</p>	<p>①203～234</p>

#### 4. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

- ・認識や思考を支えるものとしての言葉の働きに気づき、多様な社会や人とのあり方を考えるきっかけとなるよう、導入文として「気持ちよさという罪」を設けた。
- ・さまざまな情報の扱い方を身につけるために、複数のテキストで構成した教材 (I 部：評論 I 「いのちは誰のものか?」、評論 III 「木を伐る人／植える人」、評論 IV 「ロボットは心を持つか」、II 部：評論 I 「人間の領域」、実社会「ニュースを読む」など) を数多く設定した。また、見解の共通点や相違点を比べることを目的とした単元「評論解析 C」を設けた。
- ・一般的な教養を高めるとともに、専門的な知見に触れられるよう、「評論コラム 1～6」と「実用文コラム」を設けた。

# 編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表、配当授業時数表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
107-197	高等学校	国語	論理国語	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教科書名		
212 桐原	論国 212-901	探求 論理国語 改訂版		

## 1. 編修上特に意を用いた点や特色

個々の教材の採録にあたっては、全体として、学習指導要領の「2内容」の各事項に沿った指導ができるよう、優れた表現と構成を持ち、主題や内容が明確で、適度な長さのものを厳選した。また、論理的・批判的に考える力および表現する力を養うために、「書く一問いを生む」「書く一問いに答える」単元を設けた。巻頭・巻末には、主体的な言語活動を補佐するための資料として「付録」を設けた。

## 2. 対照表

図書		図書の構成・内容 教材名	該 当 箇 所 (ページ)	学習指導要領の内容			配当時数	
部	単元			知識及び技能	A 書くこと	B 読むこと	A	B
		評論を読み解く 解析マスター	前見返し	(1)ウエ(2)ア			—	—
		情報の整理 思考ツールの活用	付録	(2)イ			—	—
		文献調査の方法	付録	(1)アウエ			—	—
I 部	〈知〉のコミュニテイへ	気持ちよさという罪	10～17			(1)アカ		1
	評論Ⅰ	チンパンジーは「おせっかい」をしない	18～24	(1)アイウエ		(1)アカ		2
		いのちは誰のものか？ 〔参考〕〈知〉の深化「晴れた空の下で」	25～33	(1)アイウエ(2)ア		(1)アオ		2
	評論 解析A	科学と市民	34～35	(1)ウエ(2)ア		(1)アイウ		1
		膜という境界	36～37	(1)ウエ(2)ア		(1)アイウ		1
		「もどかしさ」の融合	38～39	(1)ウエ(2)ア		(1)アイウ		1
		「可能性」としての貨幣	40～41	(1)ウエ(2)ア		(1)アイウ		1
	評論Ⅱ	動物の信号と人間の言語	42～48	(1)アイウエ		(1)アカ		2
		〔評論コラム1〕言語、その創造性と束縛	49	(1)アイ	—	—	—	—
		行動としての話し言葉	50～59	(1)アイウエ		(1)オカ		2
	体験と思索Ⅰ	カフェの開店準備	60～65	(1)アイウエ		(1)オカ		1
	「書く」 一問いを生 む	世界の見え方を変える	66～69	(1)アイウエ		(1)ア		1
		「書く」ことへの挑戦一問いを生む	70～71	(2)アイ	(1)アイ			3

図書の構成・内容		該当箇所 (ページ)	学習指導要領の内容			配当時数		
部	単元		教材名	知識及び技能	A 書くこと	B 読むこと	A	B
I 部	評論Ⅲ	木を伐る人/植える人	72～93	(1)アイウエ(2)ア		(1)カキ		2
		〔参考〕〈知〉の深化「なめとこ山の熊」						
		〔評論コラム2〕木と人の哀しい過去をかみしめて	81	(1)イ	—	—	—	—
		宇宙樹	94～99	(1)アイウエ		(1)オカ		2
	評論 解析B	「物語」としての伝統	100～101	(1)ウエ(2)ア		(1)アイウ		1
		「文章読本」	102～103	(1)ウエ(2)ア		(1)アイウ		1
		博物館というメディア	104～105	(1)ウエ(2)ア		(1)アイウ		1
		現実・相貌・物語	106～107	(1)ウエ(2)ア		(1)アイウ		1
	評論Ⅳ	芸術も科学も「別世界」を見せる	108～114	(1)アイウエ(2)アイウ	(1)イエ			4
		ロボットは心を持つか	115～123	(1)アイウエ		(1)ウキ		2
		〔参考〕そもそも心とは何か						
		〔評論コラム3〕人工知能を通して人間を考える	124	(1)イ	—	—	—	—
		ドローン兵器とSNS	125～133	(1)アイウエ		(1)アカ		2
	境界を こえて	器としての「わたしたち」	134～140	(1)アイウエ		(1)アカ		2
		見えぬものを見るということ	141～144	(1)アイウエ		(1)アオ		2
		もしも宇宙に行くのなら	145～154	(1)アイウエ		(1)アカキ		2
		〔評論コラム4〕「宇宙人」には遭えないけれど	155	(1)イ	—	—	—	—
	体験と思索Ⅱ	焚き火の時間	156～163	(1)アイウエ		(1)オカ		2
	評論Ⅴ	暴力はどこからきたか	164～173	(1)アイウエ		(1)アカ		2
		「である」と「する」こと	174～186	(1)アイウエ		(1)アカ		3
	実社会	実用的な文章1 議事録を作る	187～191	(1)ウエ(2)イ	(1)オカ			4
		実用的な文章2 ゲームのルールをまとめる	192～194	(1)ウエ(2)イ	(1)オカ			4
		実用的な文章3 通信文を書く	195～199	(1)ウエ	(1)オカ			4
		実用的な文章4 観光地紹介を書く	200～202	(1)ウエ(2)イ	(1)アイ			4
	論文を読む	月への咆哮—「山月記」をめぐって	204～209	(1)アイウエ(3)ア		(1)アウ		2
		淋しい人間—「こころ」をめぐって	210～219	(1)アイウエ(3)ア		(1)アウ		2
		ベルリンの「内」と「外」—「舞姫」をめぐって	220～225	(1)アイウエ(3)ア		(1)アウ		2
		変身に伴う快楽と恐れ—「山月記」「変身」を通して	226～234	(1)アイウエ(3)ア		(1)アウ		2

図書の構成・内容		該当箇所 (ページ)	学習指導要領の内容			配当時数		
部	単元		教材名	知識及び技能	A 書くこと	B 読むこと	A	B
II 部	評論Ⅰ	オブジェとイマージュ	236～244	(1)アイウエ		(1)ウカ		2
		人間の領域 〔参考〕〈知〉の深化「アノマロカリス」	245～259	(1)アイウエ(2)アイ	—	(1)アイ		2
		言葉の〈意味〉と〈表徴〉	260～265	(1)アイウエ		(1)アオ		2
	評論 解析C	権力にまつわる「秘密」	266～267	(1)ウエ(2)アイ		(1)アイウ		2
		メディアと民主化	268～269					
		足跡	270～271	(1)ウエ(2)アイ		(1)アイウ		2
		創造としての本歌取り	272～275					
	体験と思索Ⅰ	向こう側に人がいる	276～281	(1)アイウエ(2)アイウ	(1)イオ		2	
	AIと 人間	人工知能が問う知性	282～290	(1)アイウエ		(1)アカ		2
		キャラクターの身体、自動車の身体	291～295	(1)アイウエ		(1)アカ		2
	評論Ⅱ	市民社会化する家族	296～306	(1)アイウエ(2)ウ		(1)オカ		2
		〔評論コラム5〕家族と社会と一人一人のために	307	(1)イ	—	—	—	—
		多様性の時代における「利他」	308～315	(1)アイウエ(2)アイウ	(1)アウ		2	
		身体と出現 〔参考〕変身—冒頭部より	316～325	(1)アイウエ		(1)エオ		2
	「書く」 —問いに 答える	知的創造のために	326～329	(1)アイウエ		(1)ア		1
		「書く」ことへの挑戦—小論文を書く	330～331	(1)ウエ(2)アイウ	(1)イウエオカ		4	
		「書く」ことへの挑戦—レポートを書く	332～333	(1)ウエ(2)アイウ	(1)アイウエオカ		4	
	評論Ⅲ	「蛮行」が生まれるとき	334～341	(1)アイウエ		(1)ウカ		2
		霧の風景	342～349	(1)アイウエ		(1)ウオ		2
		「貫之は下手な歌よみ」か？	350～359	(1)アイウエ		(1)アオ		2
	体験と思索Ⅱ	沙魚	360～369	(1)アイウエ		(1)カキ		2
	評論Ⅳ	ファンタジー・ワールドの誕生	370～377	(1)アイウエ		(1)ウカ		2
		ポストモダンと排除社会	378～384	(1)アイウエ		(1)アエ		2
		〔評論コラム5〕「大きな物語」の喪失とポストモダン	385	(1)イ	—	—	—	—
	近代を見 つめる	日本文化私観	386～394	(1)アイウエ		(1)ウカ		2
		娯楽について—「人生論ノート」より	395～401	(1)アイ		(1)オカ		2
		侏儒の言葉	402～405	(2)アイ	(1)アオ		4	
評論Ⅴ	地図の想像力—ボードリヤールの寓話	406～416	(1)アイウエ		(1)アオ		3	
	真理の探求と民主主義	417～425	(1)アイウエ		(1)オカ		2	

図書の構成・内容			該当箇所 (ページ)	学習指導要領の内容			配当時数	
部	単元	教材名		知識及び技能	A 書くこと	B 読むこと	A	B
Ⅱ 部	実社会	実用的な文章5 全国高校生「四字熟語」総選挙	426～428	(1)ウエ(2)ア	(1)ウエ		3	
		〔実用文コラム〕四字熟語とは何か	429	(1)アイ	—	—	—	—
		実用的な文章6 プレゼンテーションソフトを活用して発表する	430～435	(1)ウエ(2)イ	(1)アイ		4	
		実用的な文章7 志望理由を書く	436～441	(1)ウエ	(1)ウカ		4	
		実用的な文章8 ニュースを読む	442～448	(1)ウエ(2)アイ		(1)イエ		2
		実用文解析へのステップ	後見返し	(1)エ			—	—
							50	90
							<b>総計</b>	140